



弓削商船 だより

第49号 平成13年3月

弓削商船高等専門学校

〒794 - 2593 愛媛県越智郡弓削町下弓削1000

TEL 0897 - 77 - 4620 FAX 0897 - 77 - 4693

ホームページアドレス <http://www.yuge.ac.jp/>



目 次

退職にあたり.....	1
卒業に際して.....	2
日本丸から卒業生へ.....	2
卒業生卒業研究テーマ.....	3
卒業生就職・進学一覧.....	4
ロボットコンテスト.....	5
プログラミングコンテスト.....	6
商船祭.....	7

第22回四国地区高等専門学校総合文化祭.....	8
学校見学会.....	8
わくわく実験ひろば.....	8
創立100周年記念日特別講演会	9
クラブ活動状況.....	13
情報工学科特別講演.....	14
校内マラソン大会.....	14

退職にあたり

商船学科教授 野村 士 平

このたび健康上の理由から、定年を一年前倒して、この三月に退職することになりました。小生が本校に赴任したのは、昭和47年（1972年）12月でありました。爾来、28余年間どうやら職務を全う出来ましたのも、教職員、及び学生諸君のお力添えのおかげでありまして、深く感謝いたします。



船会社から本校に赴任した当初は、教えることが不慣れで、若さに任せて、かなり無理な注文を、座学に、実験に強いていたようです。ところが、気力、体力に優れた学生諸君は、無理な注文にも十分にフォローしてくれました。また、ラグビー、相撲等、色々なスポーツも一緒に行ないました。今考えてみれば、小生が「遊んでもらった」のかも知れません。このように、現在に至るまで、学生諸君からエネルギーの供給を受けている小生は幸福者であります。

さて、昨今の社会及び産業構造は、我々年寄が体験した右上がりの連続、「行け行けどんどん」の構造では到底ありえない、厳しいものです。集団で行動して、自己を集団に埋没させて、なんとかつじつまが合った時代ではなく、自分のものの考え方（個性）を社会に発信し、同時に、科学技術の進歩に対応出来る知力が求められる時代であります。これは古くて新しいテーマ「個性、品性、知性の磨き上げ」を社会が要求しているということです。

このためには、常に学ぶ姿勢を持つことは言うまでもありませんが、学習対象の根底にあるものに思いを致すこと、問題解決のプロセスを重視して結果のみを性急に求めない、着実な学習方法が必要になって来るでしょう。学生諸君には、洗練

された個性、品性、知性を養うトレーニング場としての本校の位置付けも理解して欲しいものです。

最後に、教職員、学生の皆様のますますのご健勝と、本校の今後のご発展をお祈りして、お別れの言葉といたします。

永い間大変お世話になりました。

略 歴

野村士平（NOMURA, Shihei）

S 13 .10 .9 生

昭和36年 9 月 東京商船大学航海科卒業

36年10月 大同海運株式会社入社

39年 4 月 ジャパンライン株式会社

42年 8 月 鳥羽商船高等専門学校助手

45年 4 月 ジャパンライン株式会社

47年12月 弓削商船高等専門学校講師

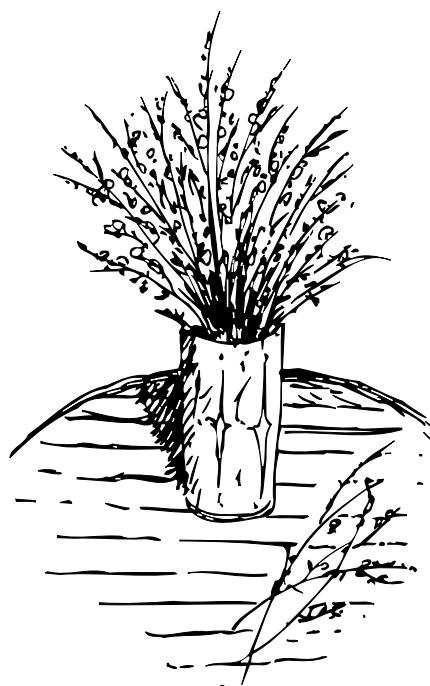
50年11月 " 助教授

54年 4 月 " 学生主事

（昭和58年 3 月まで）

60年 4 月 " 教授

現在に至る



卒業に際して

電子機械工学科 5 年 青 木 潔

本校に入学して 5 年。私は「モノに触ったり，作ったりすることが好き」，ただそれだけの理由で本校に入学してきた。その頃は，5 年間という長い時間があれば自分のやりたいこともきっと見つける



ことができるだろうと思っていた。しかし，時間はあっという間に過ぎ去っていくもので，気が付けばもう 5 年。就職を決めなければいけない時期がきてしまった。振り返ってみれば，何も目標を持たず毎日同じことの繰り返しで，自分の将来について何も考えていなかった。おかげで，いざ就職活動を始めようと思っても，自分が何をやりたいのかがわからず，時間だけが経っていた。この時期は，次々と求人との締切が迫ってくるので迷っている時間はないが，自分の一生を決める重大なことなので慎重に決めなければいけない。しかし，周りが次々と決まっていくのを見てみるとあせりだけが募り始め，何も手につかず辛い日々が続いた。この時程，何も目標を持たずに毎日を平凡に過ごしてきたことに後悔したことはなかった。「なぜあの時に…」という思いでいっぱいになったが，過ぎ去ってしまった時間を取り戻すことはできない。

時間というものは目標に向けて頑張っている時も，何もしてない時も同じように過ぎていくものです。後で悔むことはできても，その時間を取り戻すことは不可能なのです。だから，どんな小さなことでもいいので目標を持ち，限られた時間を過ごしてほしいと思う。

日本丸から卒業生へ

商船学科 5 年実習生 村 上 友 一

電子機械工学科・情報工学科の卒業生のみんな元気になっていますか？今，この文章を書いている日は 1 月 5 日で遠洋航海前だけど，日本に帰ってくる頃は，みんなの卒業式が終わっているので，今ここにお祝いの文章を書かせてもらいます。



電子・情報のみんな卒業おめでとう。5 年間の学校生活はどうだった？長く感じた人もいれば，あっという間の 5 年間だった人もいると思います。その 5 年間，自分では楽しめたかな？たくさんの経験をして，いろんな人と出会い，16 歳から 20 歳の青春まっただ中，夜遅くまで遊んで 20 歳きてないのにみんなで飲んだり（？）騒いだり，そして誰かのために頑張ったり誰かを好きになったり・・・と，いい思い出がたくさんできたと思います。学科は違えど 5 年間，共に過ごしてきた仲間でもあるのだから，これからもその出会いを大切にしていってください。

別れは辛いけど，これからの自分の新しい道を頑張れ！オレらも船の上から応援しています。そしていつの日かお互い元気な姿で会える日を楽しみにしています！それではみんなのこれからの成功を祈り，最後にあの言葉で終わらせてもらいます。

ごーきげんよう！



平成12年度卒業生卒業研究テーマ

電子機械工学科

卒業研究テーマ	学 生 名	指導教官
顔画像と顔面皮膚温の同時計測による笑いにおける顔色の動的解析	村上 慶彦, 森川 実	山田 貴志
ロボットコンテストに出場するためのロボット製作	池田 洋	山田 貴志
太陽光発電と風力発電を中心とした新エネルギーについて	大西 毅, 森田 善仁	近藤 満夫
SPICE を用いた CMOS リングオシレータの結合系の解析について	越智 弘光, 高宮 正次	瀬瀬 喜信
カオス暗号システムの構築	岩井 泰昌, 巻幡 正道	瀬瀬 喜信
有限要素法による車体まわりの流体解析	平本 知之, 村上 太郎	中山 恭秀
有限要素法による多孔板の弾塑性変形解析	岩見 正一, 佐高 晴樹	中山 恭秀
アナログアンプ回路のシミュレーションと設計	松原 圭一, 矢野 教彦	藤本 隆士
ボイスコイル型アクチュエータの試作	青木 潔, 簀戸 崇文	藤本 隆士
Scheme による弓削丸の運行管理について	近藤 慎也	益崎 真治
NC プログラムのためのパソコン利用法	越智 光也, 水島 隆宏	鶴 秀登 中山 恭秀
破断形状シミュレーション(切欠き材の塑性域と破断実験)	片山 朗, ロハイザット ビン シャハブディン	鶴 秀登
NC 旋盤における切削条件について	井川 暁嗣, 木村 茂史	鶴 秀登
マイコン, それによるモータ制御	ミヤグマルスレン パッテンベレル	勘久保 一
制御実験の手引書作成について	石川 優, 岡本 知之	勘久保 一
マグネシウム合金 AZ92A - T6の低サイクル疲労に関する研究	田内 孝典	高尾 健一
工業用純チタンの強度延性異方性に関する研究	大窪 利信	高尾 健一
スパッタ法による酸化物超伝導薄膜の作製	中郷宇希子, 村上 博紀	稲岡紀子生
酸化物超伝導材料の作製における研究	田頭 正則, 濱口 高	稲岡紀子生

情報工学科

卒業研究テーマ	学 生 名	指導教官
来島海峡南東部に形成される潮汐フロントの鉛直構造の時系列観測	柚木 美香	小川 量也
海洋付着生物に関する情報収集(3)フジツボの付着頻度と付着強度	白石 智子	小川 量也
携帯型生体情報収集装置のマルチセンサ化に関する研究	田名後 将, ムハマド ノール ハフィジ ビン クアド	葛目 幸一
高齢者の健康管理システムのネットワーク利用に関する研究	野本 富予, 住平 真樹	葛目 幸一
赤外線デバイスに関する研究	原田由希子	長尾 和彦
自発的学習支援 WWW ベースグループウェア~LAN 学のすゝめ~	矢原 聡子, 山本 稔, 吉田 修一 土井 英人	長尾 和彦 小川 量也
船用機関運転支援システムの拡張	時本 永吉	矢野 和昭
音声対話インターフェースに関する研究	亀島 佳史, 黒瀬 真理	矢野 和昭
加速度ピックアップセンサーを用いた音声認識に関する研究—信号処理法の調査と音声切り出し—	増田 里抄	矢野 和昭
歩行動作のパラメータ化による特徴抽出に関する研究	柏原 宏美, 倉本 千春, 星 真知子	塚本 秀史
はまかせ操縦支援プログラムの開発	寺下 千歩, トガル ロイ ルクサン グルニグ	田原 正信
ツボ探索器の作成	田市 真, 山本 豊慶	田原 正信
人の特徴抽出法に関する研究	川原のぞみ	田房 友典
教育用画像処理演習ソフト「Image Educater Ver 2」の開発	村上 卓志, 安部 和也	田房 友典
就職データベースの作成	村上 豊	濱井 禧价
防犯システムにおけるカメラの最適設置位置の検討	岡野 清輝, 上野 彩, 花井 真紀	藤井 温子 濱井 禧价
3D モデルの展開図作成ソフト	河井 寛明, 佐川 昌秀	高木 洋
VRML を使った本校ウォークスルーの作成	菅 康隆, 野間 健一	高木 洋

平成12年度卒業(卒業予定)者の就職・進学一覧

電子機械工学科

(株)アトコス	富士電エンジ(株)
因島機械(株)	(株)前川製作所
因島鉄工団地共同組合	松下電子工業(株)
技研電子(株)	(株)MARUWA
京セラ(株)	三菱重工業(株)
京セラミタ(株)	横浜電工(株)
ジャパンマテックス(株)	TATEYAMA AUTOMACHINE (マレーシア)
総合警備保障(株)	今治看護専門学校
中国電力(株)	九州工業大学(機械知能)
(株)テクノジャパン	高知工科大学(知能機械システム)
東芝情報システム(株)	電気通信大学(情報通信)
東レ(株)	徳島大学(機械)
日鋼設計(株)	豊橋技術科学大学(機械システム)
日信電子サービス(株)	豊橋技術科学大学(生産システム)
日本オーチス・エレベータ(株) 3名	長岡技術科学大学(生物機能)

情報工学科

(株)アイメックス	(株)ニチゾウ因島製作所
(株)アルプス技研	(株)日産テクノ
(株)伊予銀行	日信電子サービス(株)
岩城造船(株)	(株)ふじ
NHK 松山放送局	富士通サポート&サービス(株)
NTT ドコモ	(株)ベンチャーセーフネット 2名
エンドアートクラフト	松下寿電子工業(株)
(株)大野石油店	三菱電機エンジニアリング(株)
(株)沖電気カスタマアドテック	(株)有線ブロードネットワークス
三興コントロール(株)	(株)菱友システム技術 2名
四国電力(株)	東放学園専門学校
(株)ジャパンアウトソーシング 2名	九州工業大学(情報)
東芝プロセスソフトウェア(株)	九州工業大学(電気)
東レ(株)	豊橋技術科学大学(情報)
(株)新潟鉄工所	

ロボットコンテスト

四国地区大会

平成12年10月22日(日)

高松工業高等専門学校体育館（香川県高松市）

優勝 弓削商船高専 B スペース 1
準優勝 詫間電波高専 A
ミレニアム・リサイクラー
技術賞 高松高専 A ネギかも？参式
アイデア賞 高知高専 A 紅2000改
パフォーマンス賞 詫間電波高専 A
ミレニアム・リサイクラー
四国電力賞 詫間電波高専 B 蕾開花

全国大会

平成12年12月3日(日)

国技館（東京都墨田区横綱）

弓削商船高専 2回戦敗退

優勝 詫間電波高専
ミレニアム・リサイクラー
準優勝 岐阜高専 Crazy Climber
技術賞 米子高専 Tsushi - MAX
アイデア賞 釧路高専 TODICS
アイデア倒れ賞 豊田高専
テッペンジャック
特別賞 福井高専
ディノ・クライマー
ロボコン大賞 長岡高専 長岡猿軍団

ロボットコンテストに参加して

電子機械工学科3年 藤原 忠 弘

「地区大会1回戦突破」これが当初の目標だった。

「半年近くもかけてロボットを作るのだから、せめて1勝はしたい。」そう思っていた。

ところが、ふたを開けて見



れば、あれよあれよと言う間に地区大会優勝を手に入れていた。正直、自分でもびっくりした。まさかこんなにうまくいくなで。

でも僕にとって、勝敗はほとんど意味のないことだ。応援してくれた人、バックアップしてくれた人に対して、答えることができた。それは喜ばしいことであるが、目標は勝つことではないと思う。持てる全てをぶつけ、やり抜くことこそが目標である。

時間の経つのも忘れるほど真剣に打ち込めるもの。僕にとってロボコンは、まさにそれである。期間中は勉強がおろそかになってしまいそうなどこのことばかりを考えていた。本当はこんなことではいけないのだろうけど、やはり人には限界と言うものがあるらしい。一度に沢山のことをすると、どれかがおろそかになってしまいがちになる。

夏休みはそう考えると素晴らしい時である。本校では、宿題はほとんどないし課外もない。バイトをするのもいいが、何か一生懸命になれることにうちこむのこそ有意義な過ごし方ではないだろうか。



プログラミングコンテスト

「全国高等専門学校第11回プログラミングコンテスト」本選が、去る11月4日・5日に三重県津市の「メッセウイング・みえ」で、鈴鹿高専が開催校となって行われた。

プロコンはIT時代の草分け的行事として認知されてきており、今回の本選には課題部門12チーム、コンテンツ部門10チーム、競技部門52チームの計74チームが参加。内容の濃い熱戦が繰り広げられ、課題部門は舞鶴高専、コンテンツ部門は弓削商船高専、競技部門は小山高専が優勝、それぞれ文部大臣賞が授与された。

感謝感謝！

情報工学科5年 土井英人

会場に行く前から、私には優勝する自信があった。

自分のしてきた仕事には自信があったし、携帯電話への対応を苦心して作ってくれた、稔君。ポスターなどを美しく作り上げた吉田君。それに、発表者の矢原さん。考えうる最高のスタッフ。



最高というと語弊があるかもしれない。確かに彼らの他にも勉強ができたし、テストがよかったりする人はこの学校にも山ほどいるが、彼らは自分の責任を痛切に意識し、それを果せなかった時に自分が支払わなければならないリスクを正に評価していたように思う。

私達は馴れ合いの友達ではなく、信頼できる仲間であったように思うし、そういう意味での高度なチームワークがあった。

自分の責任を意識し、行動を決定できる人間がこの学校に何人いるだろうか？ときに遅刻してきても、スカートが短かろうと、髪が茶色かろうと...自分の責任を意識した仲間たちに恵まれた僕に

は奇跡さえ起こせる気がした。「優勝という奇跡」私達は「気さくで賢明な指導者」に導かれ、科学的な努力によってそれにたどり着いた。それは「奇跡」だとしても、私には自信があったのだ。そして、これから社会に出て大人になっても、どんなところに行っても常に情熱を灯して生きていきたいと思う。

優勝できたのも結局、仲間のおかげだ。すべての仲間達に、そして私たちにこのようなチャンスを与えてくれた方々に、ただただ感謝感謝である。

プログラミングコンテストに出た分かったこと

情報工学科5年 矢原聡子

プログラミングコンテストには4人で参加しました。始めはこのメンバーで大丈夫か...というのが本音でした。案の定、言い争い...もとい話し合いはほぼ3月から毎日途絶えることはありませんでした。



何でも4人で話し合い、とことん言い合う。この4人をまとめなければならなかった長尾教官は本当に大変だったと思います(反省)

私はプロコンでプレゼンの担当でした。以外とアガリ症で神経質な私は、本番前夜、遅くまで練習していたのですが、3人は文句も言わず付き合ってくれました。本番当日、私は他の高専の発表も見ず、6時間ずっと自分たちのプレゼンの原稿を眺めていました。そんな私を3人はそっと(もしかしたら怖がっていただけかも知れませんが)しておいてくれ、たまに気にかけて見に来てくれたりしました。そして本番1時間前、寒い外での練習にも付き合ってくれました。本番では自分でも驚くほどよくしゃべっていた気がします。

私は素直ではないので3人に有難うと言っていない。でも実はとても感謝しています。そして

長尾教官にも...分かったことは私達，実はチームワークが良かったんですね。

プロコンを通して学んだこと

情報工学科4年 元 森 龍 太

プログラミングコンテストには，3年の時から出ているので，雰囲気というものはわかっていました。先輩方が素晴らしい活躍を見せていたので，それを超えるような作品を目指していた。しかしながら，実際自分たちで作品を作り上げてみると，作品に自信を持つことが出来なかった。本選の1週間前に，NHK から取材があるといわれた時には正直驚きだった。昨年も先輩方が，NHK の取材を受けていたので，自分たちの作品に自信をもつことができた。TV カメラも来てインタビューを受けたが，なぜか緊張しなかったことが記憶にある。

実際ぎりぎりまで準備に追われて，肝心なことをいくつか忘れるような状態が続いた。それは，当日梱包を開いてみて初めて気がついた。展示に使う道具がいくつか足りず，非常に困ったことになっていた。後悔先に立たずである。自分のことに集中するあまり，他の人の状況などを把握することが無かったのが最大の原因だと考えられる。チームワークの欠如がこのような結果をもたらしてしまった。

個人的には，プレゼンテーションという役割が与えられて人の前に立つという苦手なことを行った。順番が来るまでは非常に緊張していたが，始まると特に大きなミスも無く無事に行うことが出来た。プレゼンテーションを通して今まで人前で話すのが苦手だったのが，かなり自信をもって話すことができるようになった。

このように，いろいろと課題を残しつつ，この経験を今度のプログラミングコンテストに活かせば幸いである。



商 船 祭

第30回商船祭実行委員長 久 保 克 善
商船学科4年

みなさん，今年の商船祭は楽しんでいただけたでしょうか？「まあまあだったかな～？」とか「良かったんじゃないのかな」と言ってくれる人が多くいてくれることを願いたいところなんですけど・・・。

今年度は「創造」をテーマに「New 商船祭」を作りあげようとがんばりました。しかし，新しくするとか，新しいことを始めることは思ったより大変で，多くの問題点が発生し，その発生した問題点を解決するのがまた一苦労で時間を費やし，日々追われ，ちょっとノイローゼになりかけたこともありました。しかしそんな時に支えてくれたのが役員のみなさん，そして教官方でした。本当に感謝しています。

特に今年，新しくこだわってみたことが4つあります。まず1つ目はバザーの位置を昨年よりばらけさせたことです。このことにより，来客者が気楽に校内の展示物を見に行けるようになったと思います。

2つ目は今まで校内にばらばらで展示していた文化部の展示物を体育館や階段教室に一斉に展示し，またそれと同時に吹奏楽部に協力してもらい演奏会を行いました。このことにより今まで活用されていなかった体育館を有効に活用できたと思います。

3つ目は今まで島内ということで交通手段の問題から実現が難しいと言われていた本夜祭を学生会の協力のもとで実現させることができ，多数の参加者が集まってくれたことを大変うれしく思っています。

そして4つ目はメインイベントのカラオケを放送系の協力により通信カラオケに変えたことで一



般の方々にも気軽にイベントに参加していただけたと思います。

これらのことが実現できたのは役員のみならず、そして教官方の協力があったからです。自分が実行委員長という役柄でありながら十分なリーダーシップをとることができず、大変迷惑をかけたことが多かったとは思いますが御協力いただき、本当にありがとうございました。やはり人を仕切るのは大変だし、難しいと痛感しました。

第22回四国地区高等専門学校総合文化祭

期 日 平成12年11月18日(土)～19日(日)
場 所 マリンウェーブ
主 管 校 詫間電波工業高等専門学校

表 彰

絵画の部

佳 作 I 5 土 井 英 人
佳 作 I 5 増 田 里 抄
佳 作 I 5 村 上 豊

写真の部

優秀賞 I 5 原 田 由希子
佳 作 I 5 白 石 智 子
佳 作 I 5 柏 原 宏 美

書道の部

佳 作 I 3 村 上 真 由
佳 作 S 4 脇 坂 幸 造



学 校 見 学 会

10月15日(日)、中学生や保護者等を対象とした学校見学会が行われました。

当日は、近隣の中学生をはじめ、遠くは九州から計207名の参加がありました。

参加者は、階段教室に集合し学校概要の説明を受けたあと、学生の案内で、学科の実験室や演習室等を見学し、各学科ごとに行われた公開実験などのいろいろなイベントに参加しました。

希望者には寮務主事により学寮を案内しました。

また、午後からは練習船「弓削丸」による体験航海が行われました。



わくわく実験ひろば

弓削商船高専は、理工系教育推進事業「わくわく実験ひろば」を11月11日・12日に行った。子供たちに理工系分野に対する理解を深めてもらおうと平成8年から実施しているもので、今回は近隣の小・中学校をはじめ高校生、社会人など184名が参加。「ソーラーボートを運転しよう」「ラジコンボートであそぼう」「試して遊ぼう電気と電池」「ロボットの作成とコンピュータによる制御」など6つテーマが設けられ、参加者は機械を動かして、楽しみながら実験に取り組んでいた。

創立100周年記念日特別講演会

弓削商船高専は、明治34（1901）年に弓削海員学校として弓削の地に誕生し、本年100周年を迎えることとなった。このため100周年記念事業の一環として、平成13年1月11日の創立記念日に、第2体育館において、卒業生3名による特別講演会を開催した。坂山英治氏（昭和54年商船学科卒）、津田敏彦氏（平成2年電子機械工学科卒）及び中住祐子氏（平成8年情報工学科卒）が、企業等の実情、職場での苦労話、社会人としての心構え、学生時代の思い出等について語り、学生513名及び教職員60名は有意義な一時を過ごすことができた。なお、同校は本年、創立100周年記念行事を各種開催する予定である。

坂山英治氏略歴

昭和33年4月2日高知県生
昭和54年9月 本校機関学科卒業
昭和54年10月 四国建設機械販売(株)入社
昭和57年4月 青年海外協力隊参加
パプア・ニューギニア派遣
昭和60年4月 明星大学通信教育部入学
昭和63年4月 高知県教員採用
平成9年4月 中土佐町立久礼小学校教頭

弓削商船創立100周年おめでとうございます。今日は100回目の創立記念の日の特別講演に呼んで頂き、大変嬉しく思います。

私たちが弓削商船に入学した時は、卒業生は100%船に乗っていました。当然私も船乗りになりたくてこの弓削商船に入学しました。私たち同期の者は全てそうだったと思います。ところが卒業する頃は、船への就職が非常に厳しい状況になっていま



した。船乗りになるための努力もせず、心の整理もないまま陸上の会社に就職しました。会社や仕事に対して大きな不満はなかったのですが、なんとなく心のわだかまりが残っていました。そんな時、青年海外協力隊に出会いました。「よし、もう一度自分の人生を見直してみよう。」と会社を辞め、協力隊に参加しました。社会のレールから外れる不安や0からのスタートになる不安の中にも何か期待感も有りました。その時、自分の将来の姿を決めました。それは、28歳・36歳・42歳の自分の姿です。28歳で自分の一生の仕事となるものを見つけよう。36歳までにその仕事をしっかり身に付けよう。42歳で責任を持った立場で仕事をしていよう。何の仕事をするかは見つかっていなかったのですが、自分を奮い立たせるために課題を持たせたのです。

青年海外協力隊では、パプア・ニューギニアに派遣されました。このパプア・ニューギニアでの生活は私の予想よりもずっと多くの物を私に与えてくれました。その中で一番大きいことは、「自分は地球人として生きている」ことを実感させてくれたことでしょう。その延長として教師という夢もできました。

日本に帰ってきて教員免許を取るために通信大学へ入学しました。通信教育というのは地味な作業の連続で、レポートを書き試験を受けて一つひとつ単位を取っていくのです。なんとか教師の免許を取って採用試験に合格したときは30歳になっていました。今42歳、母校の小学校で教頭として勤めています。少し時間的なズレはありましたが、20年前定めた自分の姿に近い形になっています。これは、周りの方たちからの支援が多くあったからですが、自分でも諦めなかったからだと思っています。

弓削商船での一番の思い出は野球です。3年生の夏の大会で今治西と延長18回というもう一度や

れと言われても絶対できない経験をさせてもらった。これは、弓削商船のチームメイトに感謝すると共に今治西の皆さんにも心から感謝したい。でも、本当に嬉しかったのは、一回戦に勝ったときです。とにかく一つは勝ちたいと臨んだ大会でした。そのために朝練も誰一人休むことなく、チーム全体が盛り上がっていました。地道な練習の積み重ねから一つの結果がでたのだと思います。何事もそうでしょうが、夢や目標に向かって頑張る姿というのは、地道な営みの積み重ねだと思います。皆さんも自分の目標に向かって地道に進んでいく姿勢を持ち続けて下さい。

もう一つお願いがあります。今、国際社会の中で国際人として生きていくことが問われています。皆さんの中にも、弓削商船を卒業後世界に羽ばたく方も多いと思います。その時、日本のことをしっかり理解して海外に出て欲しいと思います。自分の国を理解し好きになることで、相手の国も理解し、認めることができます。自分を大切にしてください。同じように相手も大切にしてください。そのことが地球人としての第一歩だと思います。

津田敏彦氏略歴

昭和45年 1月4日 愛媛県生

平成2年 3月 本校電子機械工学科卒業

平成2年 4月 (株)本田技研工業入社

平成2年 9月 (株)本田技術研究所栃木研究所
第12開発ブロック

高専生活を振り返ってみますと、私が弓削商船に入学したのが85年ですから、今この前の方にいる人たちが生まれた年と思うと月日が経つのは早いものだなーと感じます。

入学したときを思いおこしますと、今でも心に残っているのは寮に入ったと



きでした。

おやじの様な人、ヤンキーから汚い人までたくさんいました。もちろん、きちんとした人もいましたが、そのような状況で5月連休でいなくなった新入生もいました。“本当に5年間もやって行けるのだろうと不安に思っていました。”

しかし、今から思うとその高専生活も、あっという間に過ぎさっていました。退屈な授業もありましたが、個性あふれる教官が大勢いました。わきあいあいとした授業もありました、冗談の言えない厳しい教官もありましたが、何かと授業を楽しく過ごそうと(話題をそらそうと)色々やっていました。“そのためか、今、ざんげも含めてここに立っているのかなと思ってます。”

しかし、趣旨はどうあれ自分から楽しく授業をしようとする気持ちが大切だと思います。流されるだけの平凡な授業ではなんにも得るものはないと思います。

部活動においても同じです。

私は、友田教官のもと陸上部に在籍していましたが、最初はやはり先輩方との体力の違いを感じました。それでも先輩について行こうと一生懸命がんばっていました。先輩が目標なのです。他人の背中を見て走っているだけでは面白くない！とにかく前へ前へとがんばってました。友田教官からも“なんで前へでない”と厳しい叱咤激励がとび、目標に向かって努力していけば必ず追いつけるのです。

日々の練習(しごきとか)以外にも、上下関係やら、精神力を鍛えられましたが、やはり大会で優勝すれば充実感がわいてきます。やってよかったと思えるのです。優勝できなくても、今までやってきたことを出し切って自己タイムが更新できれば、達成感はそこから生まれると思います。

それに陸上部は個人種目が多いので、自己の努力次第で結果は大幅に変わってきます。まずは、“あきらめない！”そこから次のステップがあると思います。

高専生活も4 / 5年生になると専門的な授業が

増えて選択性になってくるため、自分のやりたい方向が見えてくると思います。私の場合には、電気は目に見えないため苦手なので機械系にしました。

卒業研究も高尾教官の指導のもと、色々教わりました。試験機も自分たちでアイデアをだして考える、それを試行錯誤しながら、作っていたのを思い出します。基本的な力学も大切ですが、それをどう活かしていくかが重要です。それがなければアイデアも生きてきません。

卒業を迎える5年生にとっては今が大変でしょうが、その分、自分の糧になっていると思いますので、それを活かせるようにがんばって下さい。

その高専生活も終え、Honda に入ったわけですが、就職活動においては光岡教官に大変お世話になりました。弓削商船にきている求人情報の中で選べば簡単なのですが、自分が入りたい企業、夢があり、挑戦したい企業が“Honda”だったので。その希望を光岡教官に伝えると再三にわたり断られました。しかし、受けて見なければ判らないし、チャンスは平等にあると信じ、あきらめずに色々調べてお願いしたところ、ご尽力いただき何とか入社試験にこぎつけました。

入社試験の結果は良くなかったと思いますが、重要なのは企業に対する自己アピールだと思います。試験結果がよくても“やる気”を見せなければ採用してくれないでしょう。その企業に対する思い・夢などをアピールし、チャレンジしていきたい思いを伝えなければ意味がないのです。

その為には努力も必要でしょう。日々の生活や授業において自己アピールできるように意識しておけば、どのような状況においても伝えられるようになると思います。

今日の就職状況はよくありません、だからこそチャンスなのです。企業に対する自己アピール・個性を主張できれば必ず道は開けると思います。

中住祐子氏略歴

昭和50年12月5日広島県生

平成8年3月 本校情報工学科卒業

平成8年4月 日信電子サービス(株)入社

ソリューション推進部

学生最後の年、5年生のときに、私は卒業研究の仲間と共に、プログラミングコンテストに参加しました。「函館に行き、カニを食べよう」この一言がプログラミングコンテストに参加するきっかけ



でした。卒業研究もプログラム作成と決まり、“そろそろ取り掛からねば”と思っていた頃、その年のプログラミングコンテストが北海道の函館で開催されることを知ったのでした。それまで、北海道には行ったことがありませんでした。北海道に行き、一度おいしいものをたくさん食べてみたい。北海道に行き、カニが食べたい。もう、これは行くしかないと思いました。卒業研究の相棒は嫌がっていました。彼女は本当に嫌がっていましたが私のカニが食べたいといういきごみに負けたのか、最後は申し込みに了解してくれました。それまでプログラミングコンテストは、申し込みをすればみんな参加できるものだと思っていました。しかし、北海道まで行けるのです。そう甘くはありませんでした。申し込みの後、数々の締めきりが待っていました。作品の概要をまとめたものを提出したり、作品のPR用のビデオテープを提出したりと、コンテスト当日まで大変な忙しさでした。また、コンテスト当日もプレゼンテーション、デモンストレーションと気が抜けません。コンテストに応募した動機は不純で、パートナーと何度もぶつかり、彼女にはたくさんのことを我慢してもらい、嫌な思いもさせてしまっていたと思います。その日までに、コンテストに応募したことを後悔した日もありました。しかし、

そんなことは今さら言えず、ただ、コンテストの日までひたすらプログラムを完成させるしかないのでした。その結果、最優秀賞をいただくことが出来ました。表彰式で名前を呼ばれても、文部大臣杯と楯を手にしても、まだ信じられませんでした。あの時、最優秀賞が取れたのは、いやいやながらも私のわがまを聞き、共にがんばってくれた彼女のおかげだと感謝しています。

この体育館で卒業式を迎え、社会人になったのはつい先日と思っておりましたが、社会人となって、早5年になります。5年といいますとちょうど、高等専門学校の全過程と同じ年月となります。今、ここにいらっしゃる5年生の皆様がここに入学された頃、私は社会人となりました。幼い頃、1日1日がとても長く感じられました。しかし、最近になって1週間が、1年間がとても速く過ぎて行きます。5歳の子供にとっては5年間がその子の一生にあたりますが、25歳の私にとって5年間は人生の5分の1となります。100歳の方には同じ5年間がその方の人生の20分の1にあたります。年をとると1年が早いといわれている意味が最近になってやっとわかった気がしています。皆さんは、1日、1週間で振り返ったとき、あっという間の出来事と感じますか？それとも、何年にも感じますか？どちらにしてもその、振り返った日々は2度と戻ってきません。また、皆さんは後悔をしたことがありますか？私は何度か後悔をしたことがあります。後悔とは、ご存知の通り、後になって悔やむことを指します。後になって悔やむことも思い出したくないこともこれからたくさん増えてくるかもしれません。一度きりしかない人生ですから、出来れば後悔の少ない人生を送りたいと思いますが、同じ後悔でも、「あの時、もっとやっておけばよかった」と悔やむことは、私は避けたいと思っています。何も行動せずにただじっと待ってただけで得た結果では納得できません。それは、仕事にしても勉強にしても、生きていく上でも同じ事が言えると思います。学生時代、もっと勉強していればよかったと

思います。皆さんはオームの法則を学習されましたでしょうか？私もこの学校で、オームの法則を習いました。社会に出て、オームの法則なんて使わないだろうと思っていましたが、あるメーカーの認定試験にオームの法則が出題されました。簡単な回路が書いてあり、電流の向きを矢印で記入するものもありました。また、他の先輩の話では、化学で習った元素記号をまた勉強しているとの事でした。ある大きなプラントの設計をするにあたり、どうしても元素記号と化学反応を覚えなくてはいけない、とのことでした。社会人になって、何が役立つかわかりません。どんな状況に立たされても対処できるように、勉学に励んでください。これから、まだまだ、長い人生です。これから先、何が役立つかわかりません。身につけた知識は、なかなか目に見えませんが、いつ、どこで自分を助けてくれるか分かりません。学生の頃、私もよく勉強しろと言われました。その度に、「学生には、とりあえず勉強するように言うものなんだ」と思っていました。そうではありません。将来、必要になったとき困らないよう、今のうちから勉強することを薦めているのです。私は、社会人になると、勉強なんてしなくてもよいとずっと思っていました。しかし、社会人になってからもたくさんのことを学ぶ必要があります。社会人としての心構えから、資格試験、昇格試験とあります。普段の仕事をしながら勉強していくのは大変なことです。そのような状況になったとき、困らないように今のうちから準備をしておくことをお勧めします。

最後に、本日は創立100周年、本当におめでとうございました。

西暦2001年、21世紀のはじめの年にこのような節目となる年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。弓削商船高等専門学校の益々のご発展をお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

ありがとうございました。

クラブ活動状況

[平成12年度愛媛県高等学校東予地区新人大会]

[陸上競技]

期 日 平成12年9月9日(土)～10日(日)
場 所 新居浜東雲陸上競技場
成 績 100m 4位 M1 峰松 順子
200m 5位 M1 峰松 順子
400m 4位 I2 松野 祐果
800m 3位 I2 松野 祐果
5000m 2位 M1 柴田 光
やり投げ 4位 S1 早柏ちひろ
円盤投げ 7位 S1 早柏ちひろ

[卓球競技]

期 日 平成12年11月5日(日)
場 所 西条総合体育館
成 績 団体の部 ベスト8
個人の部 ベスト8
I1 荻田 斉之

[第31回因島市総合体育大会]

[剣道]

期 日 平成12年10月9日(月)
場 所 因島市土生小学校体育館
成 績 団体の部 優勝
個人の部 2位 S3 斉藤 克浩

[平成12年度愛媛県秋季陸上競技大会]

期 日 平成12年10月28日(土)～29日(日)
場 所 愛媛県総合運動公園陸上競技場
成 績 円盤投げ 優勝 M4 藤井 健輔
7位 S1 福万 祥教
800m 4位 I2 松野 祐果
やり投げ 4位 S1 早柏ちひろ
砲丸投げ 8位 I1 大磯 春奈

[第51回全国高等学校駅伝競走大会愛媛県予選]

期 日 平成12年11月3日(金)

場 所 愛媛県総合運動公園
成 績 14位 2時間38分21秒

[三原スポーツテニス大会]

期 日 平成12年11月26日(日)
場 所 三原運動公園
成 績 シングルスCクラス
3位 I3 古江 綾子
Dクラス
優勝 I3 尼子 順子

[第59回近県高専親善ソフトテニス大会]

期 日 平成12年11月26日(日)
場 所 弓削商船高等専門学校テニスコート
成 績 個人戦 優勝 I4 安部 幸恵
I1 宮脇 芽依

[第47回大島一周駅伝大会]

期 日 平成13年1月8日(月)
場 所 宮窪町・吉海町
成 績 一般・高校の部
優勝 1時間46分43秒

[第34回伯方町駅伝大会]

期 日 平成13年1月21日(日)
場 所 伯方町
成 績 一般・高校の部
優勝 1時間5分6秒



情報工学科特別講演

1月22日(月)階段教室にて、S4、M4、M5、I4、I5学生を対象として講演会があった。演題は、(株)菱友システム技術の松尾氏と箱崎氏(電子8期生)による①“社会におけるコンピュータ利用の実際”、②“弓削商船O.B.の実務”であった。

内容は①は製造業における強度・構造解析などでコンピュータがどのように使われているか、また、利用形態の変遷などについて、②は入社後約4年間、何をしてきたか、その中で何を感じたかについてであった。①の内容を要約すると、コンピュータは道具であるからその道具が活用される対象(業務、製品)の理解が原点である。“馬鹿と鉄はつかい様”と言うわけである。処が昨今はなんでもコンピュータと言う事で国をあげてインフラ整備に力を入れているが、問題はその中味である。金儲け、物作りの下手な人がコンピュータを入れただけで成功するわけが無い。くどい様だがコンピュータ自体は道具であり、知的生産活動そのものを実施してくれるものではない。情報工学科の職員として改めて時代に合った教育の難しさを感じさせられた。

②の内容は要約すると、学生時代どんな知識を得たかと言うより、社会人としての姿勢が強調されていた様に思った。それは、真面目に授業を受け、良い点を取るための努力により訓練されるものであるという事の様である。ちなみに、電子機械の先生が講演会后“あいつがここまでするとはなあ”と言っていたのが印象的であった。



松尾 直彦 氏



箱崎 敏久 氏

校内マラソン大会



日 時 平成13年2月2日(金) 午後1時10分から

場 所 弓削町佐島

対象者 403人

男子7.8km

順 位	学 級	氏 名	時 間
1	M1	柴 田 光	00:29:33
2	I3	赤 尾 和 英	00:29:36
3	I1	藤 本 進 矢	00:29:36
4	M4	前 田 規 敬	00:29:37
5	S2	寺 内 大 造	00:29:43
6	M1	柏 原 正 樹	00:29:57
7	I1	岡 野 甫	00:30:03
8	S1	寺 内 雅 人	00:30:13
9	S4	柏 原 薫	00:30:47
10	I2	甲 斐 剛 陽	00:30:48
11	M3	新 見 啓 介	00:30:50
12	I1	長谷川 将 司	00:30:55
13	I4	中 本 翔	00:31:01
14	S2	植 田 翔 児	00:31:24
15	M3	大 戸 陽 介	00:31:43
16	M1	小 川 展 央	00:31:56
17	S2	馬 越 俊 守	00:31:58
18	S3	上 井 博 明	00:32:01
19	I2	大 林 龍 之	00:32:03
20	S2	岸 輝	00:32:04

女子5.3km

順 位	学 級	氏 名	時 間
1	I2	松 野 祐 果	00:26:43
2	S1	早 柏 ちひろ	00:28:24
3	I3	古 江 綾 子	00:28:56
4	S4	藤 田 晴 美	00:29:30
5	I2	平 岡 沙 織	00:29:34
6	I3	尼 子 順 子	00:29:44
7	I4	村 上 貴 恵	00:29:50
8	I1	宮 脇 芽 依	00:29:58
9	I4	香 川 仁 美	00:30:01
10	I1	宮 森 友 美	00:30:12
11	I4	田 窪 恭 子	00:30:26
12	I3	松 浦 加 奈	00:30:46
13	M1	峯 松 順 子	00:30:48
14	I1	井 原 知 美	00:31:00
15	M1	柳 原 瞳	00:31:10
16	S4	木 曾 理 沙	00:31:12
17	S1	城 本 真 希	00:31:20
18	I4	岡 野 宏 美	00:31:25
19	I4	阿 部 幸 恵	00:31:41
20	I4	安 藤 美 紀	00:32:02

総合文化祭のひとこま



留学生コーナー



軽音楽演奏



茶道実演